

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200060		
法人名	有限会社 和		
事業所名	グループホーム和2号棟1・2 (和2号棟1)		
所在地	士別市東1条2丁目440番地90-91		
自己評価作成日	H27年10月29日	評価結果市町村受理日	平成27年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0193200060-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 11 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・心や体の変化の把握に努め、安心して生活できる様支援致します。 ・ご本人の「できること」「大切にしていること」を支えます。 ・力を発揮できる場面づくりを考えて対応致します。 ・御家族との繋がりを大切にし対応致します。 ・地域の中で暮らしていける事を実感できる様個々に合わせた外出支援を致します。 ・利用者間の関係性の把握に努め、関係作りへの支援をさせていただきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR士別駅から徒歩圏にあり、幹線道路沿いの商店街にも近い住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームです。近くに同一法人のグループホーム1棟があり、互いの行き来も行われています。ホーム全体が広くゆったりとしており、各居室にトイレや洗面所が整備されています。また全居室が日当たりのよい南に面しています。共用空間も窓が多く温度や湿度が調整され、快適です。職員が利用者優しく声掛けし、利用者は自分のペースで過ごしています。自治会の行事に参加したり、地域の方や幼稚園児をホームに招いて活発に地域と交流しています。市からは定期的に介護相談員が派遣されています。施設長や管理者が中心となり、各種の書類が整備されており、家族との話し合いの記録や利用者の受診記録、既往歴一覧、アセスメントシート、介護計画や介護記録、備蓄品リストなどの書類がルールに沿って適切に記録・保管されています。前回の外部評価に対しても、利用者の外出支援や災害対策など課題項目を計画的に取り組み、改善を実現しています。お便りや新聞による家族への情報提供、週3回の入浴支援、かかりつけ医への通院支援などきめ細かなサービスが提供されています。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を見やすい所に掲示し、意識しケアが実践できるようにしている。	理念の一部にある「ともに生きる」には、家族や地域とのつながりや信頼関係という意味を込めています。理念を共用部分に掲示し、ケアカンファレンスでは理念に沿って介護計画をつくることを心がけています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩での挨拶や馴染みの理美容等での交流やホーム内行事のお誘いをしていて、自治会行事の参加やホームの新聞発行時には、回覧板で回して頂いている。	地域の花壇づくりや敬老会、クリスマス会などの行事に利用者と共に参加しています。ホームの敬老会や餅つきに地域の方の参加を得ています。また、幼稚園児がホームを訪れ、交流しています。近くにある同一法人のグループホームとも行き来しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトがいるが、サポーター養成講座の依頼があるが、タイミングが合わず実践には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。ホーム内の近況報告をし、意見を頂き改善に繋げている。会議後、全家族が確認できる様にまとめて郵送させて頂き報告している。	会議は2カ月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、自治会長、複数の家族の参加を得て、防災や外部評価、外出支援、介護保険制度、実地指導などについて意見交換しています。また、議事録を家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より市担当者と連絡を取り、相談させて頂く機会がある。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得ており、施設長や管理者が何かあれば市役所に出向いて相談しています。また、市から介護保険相談員が定期的にホームに派遣されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる行為を理解し、拘束にならない様対応に努めている。日中は表玄関の施錠をせずに入出入りが出来るようにしている。緊急やむを得ない場合の同意書も用意している。	身体拘束の禁止事項や虐待についてまとめた小冊子を職員に配って理解を促していますが、定期的な勉強会等は行っていません。玄関は日中は施錠せず、自由に出入りが出来ます。利用者の出入りはセンサーで分かるようにしています。	職員全員が身体拘束の禁止の対象となる具体的行為を正しく理解できるよう、定期的に勉強会等を行って、禁止事項を確認したり、事例検討を行うことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の時間はないが、不適切なケアとならない様、職員間での情報を共有し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、研修会参加は出来ていないが、既存の研修会資料で確認できるようにしている。現在、利用が必要な入居者は居ない為、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には、時間をとって説明させて頂いている。一方的な説明で終わらない様、個々の状況に合わせ、納得が得られる様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満は、その都度聴き、出来る範囲で反映できる様努めている。運営推進会議や来設時・ケアプラン説明時に家族の意見や要望を確認させて頂き、ケアの反映に努力している。	運営推進会議や家族の来訪時、または電話で意見を聞き、得られた意見や要望を「相談・連絡内容表」に記載し、職員間で共有しています。また、毎月利用者毎のお便りを作成し、3ヵ月毎にはホームの新聞を作成して家族に提供しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主にケースカンファを通し、意見を聞く様に努めている。	職員は朝のミーティングや日々の業務の中、ケースカンファレンスなどで意見交換をしています。また、施設長や管理者は随時、職員と相談できるようにしています。職員はメニュー作りや行事、レクレーション、新聞づくりなどの係を受け持ち、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職・資格手当等就業規則の整備はしている。労働時間・休日の優遇も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費用は会社負担とすすめているが、人員不足にて研修機会の確保が難しい状況。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	日常業務中での会話は一部のみあるが、改めた機会を設けてのネットワーク作りには至っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の思いを聴く時間を確保し、職員間で話し合い把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点から悩み等お話しできるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの時点で担当ケアマネが申し込み状況を知り得ていない場合には、連絡をし、情報共有に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行える環境作りに努め、感謝の気持ちを表現し互いに支えられている事を実感できるようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設頂いた際やケアプラン説明時にお話しする時間づくりをし、情報共有できる様努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室、病院、お寺、自宅、友人宅への同行をし、懐かしさを感じられている場面は多い。ホームにも足を運んで頂ける様お声掛けし来て頂いた事もある。	利用者の友人や元近所に住んでいた方が来訪しています。携帯電話を持ったり、部屋に電話を引いている方もいます。利用者の希望に合わせて、理美容院や商店街、墓参りなど個別の外出支援を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して、共有空間での環境づくりや交流が上手くできない場面での仲介役となっている。利用者同士で新聞や茶碗を下げる等、さりげない優しさもよく見られている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて退去時には、生活状況や支援内容についての情報整理を7している。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や改めて時間づくりの上、確認し把握するよう努めている。困難な場合には、小さな反応も確認するよう心掛けたり、御家族からの情報も得て検討する様に努めている。	多くの利用者は言葉で思いを表現でき、難しい方の場合も家族からの情報や問いかけた際の反応を参考に思いや意向を把握しています。基本情報シートを整備し、アセスメントシートを6か月毎に更新して情報を蓄積し共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問や担当ケアマネからの情報を得る、又、御家族に書面として生活歴を記入して頂き、背景を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録を日々行い、生活リズムの把握をするともに、普段と様子が違う場合には、申し送りにて共有することに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に担当者が立案し、職員間での意見交換をし、それを基に家族と話し合い作成している。	介護計画は3カ月毎に見直ししています。ケースカンファレンスでの評価をもとに次の計画を作成し、本人や家族から同意を得ています。日々の記録は介護計画を参照しながら、目標項目の番号を記載して、計画目標に対応した内容を記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録である暮らしのシートに毎日記入をし、情報共有に努め、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の支援や本人意向での理美容、買物等できる限り対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の地域の催しやイベント等、希望を伺い楽しめる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望や相談をさせながら、定期的な病院受診の支援を行っている。病院受診同行時、会話が困難な場合、日常の様子を代弁し健康管理へのサポートをしている。	利用者が個々のかかりつけ医に通院しており、主にホームで通院を支援しています。利用者毎に受診記録を作成するとともに、個々の既往歴を整理しています。受診内容を家族に連絡した際は「相談・連絡内容表」に記録しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時の相談や介護職員として兼務している為、早めに対処する様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をし、入院中には状況把握に努め、担当者と今後のケア等について話し合いが出来る関係作りを築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化にともなう対応の指針を説明の上、同意書を得ている。事業所が対応し得るケアについて説明を行っている。医療機関も事業所内でできる医療行為を踏まえ対応頂いている。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」を説明し、同意書を得ています。ホームで医療行為が必要な看取りは難しい旨を説明し、理解を得ています。実際に重度化した場合はかかりつけ医と相談し、受け入れ先の紹介を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、全職員が救急救命士によるAEDを使用しての心肺蘇生法や誤嚥、出血、骨折時の対応方法について学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、消防署と消防設備会社の協力を得て、地震時・火災時の訓練実施を行っている。地域の方にも御協力頂きながら行っている。	年3回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、近隣住民の参加も得ています。職員の救急救命訓練も毎年実施しています。自然災害マニュアルを作成し、様々な災害への対応を話し合っており、リストに沿って備蓄品を用意しています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快な思いにならない様に言葉かけや対応に努めている。	利用者への呼びかけは「さん」づけで行っています。職員の入社時に職員心得を説明し、業務の中で気づいた点があればその都度注意しています。個人ファイルは事務所に適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答え易い言葉かけや希望を確認しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体調やペースを大切にし、本人希望を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人意志に沿い身だしなみをして頂いている。気温変化や乱れ・汚れ等には、声をかけ心地良い姿で過ごせる様に支援している。定期的に理美容への支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いや食べづらい物を把握し、食事準備時には形態等十分配慮している。個々の力に合わせた食事支度や片付けを一緒に行える様、場面づくりに日々努めている。	職員が作成した献立をもとに、季節の食材を用いたり、誕生日に利用者の好みのものを提供しています。下ごしらえや配膳、テーブル拭き、おやつ作りなどを利用者が手伝っています。利用者は個々のペースで、職員との会話を楽しみながら食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の確認、記録をし、1日を通して確保できる様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のペースやタイミングに合わせ声かけや介助にて支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔の把握に努め、気持ち良くトイレで用を足せる様支援している。排泄用品の使用を減らす事もすすめ、心配も少なく移行できているケースもある。	各居室にトイレがあります。全員の排泄表を作成し、パターンに沿って誘導や介助を行っています。共用空間から居室のトイレに誘導する場合は、耳元で、直接的な表現を避けて誘導しています。パッドや紙パンツを使用する利用者も、なるべくトイレに座って便意を促すようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や乳製品をすすめたり、腹部・肛門部マッサージを行い、自然排便できる様対応している。慢性的な便秘の方には、下剤使用にて排便コントロールへの支援もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	曜日、時間の設定内で可能な限り希望を大切に支援している。体調変化にともない清拭や更衣へ切替えての対応実施もある。	利用者は月、水、金曜日の週3回を基本に入浴しており、午前午後とも入浴可能です。入浴を拒む場合でも声掛けの工夫で週2回は入浴しています。入浴剤を使用したり、湯加減を好みに合わせています。女性の方は同性介助を基本とし、必要に応じて2人介助も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息・就寝パターンを把握し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬品名カードの整理に努め、変更時には情報共有できる様、記録している。服薬準備時には、Wチェック、服薬時の声出し確認を意識し注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や買物、散歩、ホーム敷地内でのクラブ参加、カラオケ等のレク等、意向を確認しながらリフレッシュの機会づくりに努めている。月2回の移動図書車の利用をされている方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々、又は数名で本人・家族意向を確認しながら、予定をくみ外出支援を全入居者行っている。家族の御協力もして頂き、久しぶりの自宅に感激されている入居者の姿も見られている。	日常的に周辺の住宅街や商店街に散歩に出掛けています。利用者や家族の希望を把握して個々の外出支援計画を立て、実施しています。年間行事では花見や土別まつり、天塩川祭り、自治会の敬老会、市の文化祭、雪まつりなどに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望を伺い、所持したり買物時に使用できる様支援している。又、銀行へも行ける様対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に電話を取り付けている方や携帯電話を持っている方もいるので、自由に電話のやり取りをしている。電話がない方は、希望時にできる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に配慮と季節を感じられる様な掲示物や行事等の写真を飾り、目でも楽しめる様に努めている。	居間と食堂の空間は広く、事務所のカウンターやキッチンから共用空間全体が見やすくなっています。壁には行事の写真や手作りの装飾などが豊富に飾られ、新聞や書籍、遊び道具などがさりげなく置かれています。温度や湿度にも配慮がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食卓を自由に利用して頂いている。TVや新聞・本を読む、気の合う方同士での会話をされている姿もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物の持ち込みもすすめて頂き、仏壇やテーブル・タンス・座布団等愛着ある物や写真を掲示する等し、心地良い空間作りに配慮している。	居室には備え付けのトイレ、洗面台、冷蔵庫があり、利用者は自由にテレビやたんす、仏壇、趣味の品物などを持ち込んでいます。壁にも家族の写真やカレンダー、時計などを自由に飾っています。すべてが南に面する日当たりのよい部屋となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分る事やできる事を支え、安全に過ごせ、自尊心を守れる様に環境作りや対応に努めている。		